お取引様各位

2022 年 11 月 30 日
ユアサ木材株式会社

平素は大変お世話になり、ありがとうございます。
各地駐在員、エージェントから入りました地域別産地情報を連絡させて頂きます。

No. 237

マレーシア

AA) トピックス（マレーシア総選挙【GE15】）　：
11 月 19 日に投開票されたマレーシア下院総選挙（定数 222 人）は、現職のイスマイルサブリ首相、アンワル元副首相、及びムヒディン前首相のそれぞれが率いる主要 3 政党連合がいずれも単独過半数を確保できなかった。

アンワル氏率いる野党連合 PH（パカタンハラパン）が 82 議席と最多議席を獲得。ムヒディン氏の PN（ペリカタンナショナル）は現政権の伝統的な牙城から支持を奪い、73 議席を獲得した。イスマイルサブリ氏が所属する与党連合 BN（バリサンナショナル）の獲得議席数は 30 議席に留まった。新政党連合を立ち上げ注目されたマハティール元首相は、残念ながら落選した。

過半数を確保できなかったことで、注目は連立をどのように組むかということに移る、PH と PN はお互いに連立を望まず、膠着状態が続いた。その状況の打開に向け、アブドラ国王が仲介に乗り出し、各勢力の代表と面会をして大連立を持ちかけたことで事態が動き、方針を巡って内部対立が起きていた BN が PH 支持に方向転換したことで過半数獲得の目途が漸くたった。そして、過去、幾度も首相候補と言われていたアンワル氏が晴れてマレーシア第 10 代目の首相に就任した。

過去この産地情報でも何度か名前を挙げたアンワル氏は、1947 年 8 月 10 日生まれの 75 歳。イスラム青年組織のリーダーを経て 1981 年に BN を率いる統一マレー国民組織（UMNO）に入党する。すぐに頭角を現し、当時のマハティール内閣で文化青年スポーツ相、農業相、教育相などを歴任。その後 1991 年に財務相、1993 年には副首相に就任した。しかし 1997 年に打ち出した縁故主義打破などを謳った改革がマハティール首相の逆鱗に触れ、1998 年 9 月に解任される。さらに同性愛容疑で逮捕・投獄されるという政治的弾圧を受けた。

アンワル氏不在の間は、妻のワン・アジザ氏ら支持者が人民正義党（PKR）を結成し、野党連合 PH を結成し勢力を拡大、さらには打倒 BN を掲げて仇敵のマハティール氏とも和解をし、2018 年の総選挙（GE14）

ではついに政権奪取に成功した。これにあわせてアンワル氏は国王から恩赦を受けて出獄。PKR の党首となり PH 政権を支えた。

PH 政権で首相となったマハティール氏とは総選挙前に次期首相後継はアンワル氏との密約があったが、マハティール氏が約束を先延ばししたことで両者の溝が深まり、マハティール氏支持者らがアンワル氏の排除を目指して野党となった UMNO などを取り込んで政変を起こし（2020 年のシェラトン・ムーブ）、アンワル氏は首相になれないまま再び野党に身を置くことになった。

以上のような紆余曲折もあったが、今回は念願の首相就任劇を迎えることになった。今後は、大連立の大所帯を運営するにあたって、閣僚ポストをどの勢力にどのように配置するか、早速、その手腕が試されることとなる。

BB） 木材状況 ：
10 月の合板輸入統計が発表された。マレーシアからの日本向け合板輸入量が月次 3 万 m3 台は、過去においても思い当たらない。おそらく、この 3 万 m3 台の数字は、マレーシアからの輸出が始まった時期まで遡らないと見当たらない。
1990 年代後半からマレーシアからの合板輸出が本格的にスタートしたわけだが、2006 年の 2,579 千 m3 の輸入量をピークに、その後上下の波は有ったにしろ、下降線を辿っているのが現状ではある。2022 年も残すところ 1 か月となってしまったが、マレーシアからの 10 月までの合計輸入数量は 654 千 m3 であり、最低だった 2020 年の実績までは落ち込まないとは思うが、激減の入荷は後に大きな影響をもたらすことになろう。

その 2020 年だが、コロナでの影響を大いに受け、年間輸入量は 714 千 m3 の入荷に過ぎず、過去最低の輸入実績の年であったが、おしなべて低水準であった為、比較的温和に時が経過した。2022 年では、前半にはウッドショックの影響にて入荷増をもたらした為、2020 年の年間輸入数量にまでは落ちないものの、10 月の輸入量は激減し過ぎやしないかというのが実感だ。この輸入量のペースで年を越してしまいずるすると経過すれば、ややもすれば 2023 年は、年間 500 千 m3 台の輸入量まで落ち込む計算となってしまう。当然、建築に向けられる資材としては、不足する。はたして需要期には、どうなってしまうのか？ 想像も付かない。

我々インポーター自身も、今回ウッドショックを引き起こしてしまった責任こそ感じるところではあるが、火をつけてしまう一番の問題は流通在庫の有無であることはご承知頂いているところであろう。我々には宅配便のような「翌日配送」をする実力を持ち合わせてはいない点を、どうかご理解賜りたいところであり、加えて早めの手配を望むところである。
もはや「ミニウッドショック」は先にも容易に起こり得るもので、必然的に再発する流通構造となってしまってはいないかと心配している。現地生産工場の淘汰が更に進めば、ウッドショックなるものの再発の頻度が増える事は、想像するに容易い。

11 月が終わろうとしている今、11 月の輸入量も低いことは予想される。現地生産地は旧正月、或いは雨期入りを目前とした時期に当たるだけに、この流通在庫の減少に対して、多少警告をしておきたい。

インドネシア

日本国内からの引き合いが急減しているなか、現地合板メーカーの C&F 価格の大幅値下げを予想する声もあったが、11 月オファー価格は 2.4 ㎜で 2%程しか下がらず、いまだ高値を維持している。11 月中旬に円高に振れたことで、ようやく受注につながったがまるで勢いがない。工場はそれでも値下げに応じる姿勢は見せないので、良くも悪くも相場は維持されている。
9 月から３ヶ月連続で成約が少ない状態が続いており、工場はいつまで我慢できるのかと心配もするが、ウッドショックで 1 年以上楽しい思いをしてきた工場は、まだまだ打たれ強さを持っているのかもしれない。

生産量が減少している中、既にバルク船からコンテナ船への切り替えが自然と進んでおり、バルク船の配船が増えることは当面有りそうにない。以前は毎月 4 船ほど配船されていたのが、今や月に 1 船ほどの配船になってきている。関東地区の港湾倉庫スペースの逼迫は改善されておらず、当面は関東地区へのバルク船の配船は期待できない。現地工場の契約残も減りつつあることから、2 月までは低調なバルク船の配船が続くと予想する。

10 月の通関統計が出た。
10 月のインドネシアからの輸入量は、予想よりは減っていないイメージではある。しかしながら、これも、前月（9 月）の入港を嫌ったインポーターの調整によるものと、コンテナのデバン待ちが相まって、従来 9 月分の通関を翌月に持ち越した為とみる。9 月・10 月と平均すると 7 万 m3 程と見るべきか。
さすがに 11 月の輸入量は 5 万 m3 程度まで落ちると見ている。幅広く在庫を取り揃えているインポーターですらも歯抜け在庫が目立ち始めるが、抜けた歯を埋める為の細かいオーダーもかけ辛く、欠品アイテムも生まれている様だ。

上述の通り、在来船の配船が無い為、コンテナでの配船とはなるが、積み替え港での滞在日数（航海日数）が掛かる為に、入港するまでに最低 2 か月は掛かる点は、今一度認識しておくべきであり、在庫については、注意をしておきたいところである。

～Cool　Japan！（外国人に愛される日本のお菓子の秘密？？？）～
インドネシア（ジャカルタ）のスーパーマーケットを暇にまかせて、ぶらりと散策してみた。
どうやら外国人向けのスーパーの様だが、居住者の数の違いもあるのであろうが、お隣のお国の「辛ラーメン」「サムヤンラーメン」シリーズの多様さに驚かされる。
さて、日本のラーメンシリーズとしては、我らが「カップヌードル」が有りホッとするのであるが、中でも「シーフード味」が海外でも評判が良い様だ。また、他には？と見ると「UFO」が有る。双方同じメーカ

一だ。地場で製造しているのであろう。

聞くところによると、日清食品さんは 1992 年よりインドネシア工場にて即席麺の製造を開始しており、そこそこの歴史がある。「ハラール認証」も取得しており、袋パッケージには、当然このマークが印刷されている。そもそも「ハラール」とは、「合法」という意味らしいが、イスラム教徒がイスラム法にて「合法」として認められた食品（イスラム教徒が食べるのに合法である食品＝特に豚・酒類は厳禁）を、ハラール食品と呼ぶのである。ここイスラム教徒を対象としたビジネスにて重要なことは、ハラール認証を獲得する事でもある。食品にイスラム教徒が安心して食せる「ハラール」認証マークが貼られることにて、安心が担保されているのであり重要な認証でもあるのだ。

そのハラール認証が貼られた「カップヌードル」は、今では世界各国のイスラム教国にて高い市場シェアを獲得しているという。

＊日本円で 70 円は、高い？安い？
カップ右下の緑の丸いマークが「ハラール」

＊ハラール印（国に依ってデザインも異なる）
こちらは、インドネシア版

さて、ここジャカルタのスーパーにて、もう一つ話題にしたいものが有る。
「ベビースターラーメン」
多くの韓国のお菓子（スナック？）の陳列の中に、置かれていた。
先の話題である「ハラール」認証は確認出来なかったが、他の日本の数あるお菓子を差し置いて、堂々海外で販売されている。しかも、陳列の上下両サイドには韓国のお菓子。なんで、ベビースター？ 少し違和感。

元々、このベビースターラーメンは、国内においては自社製品の即席ラーメンから出た端材を使用して作ったのがきっかけと聞く。環境配慮型再生フード？　当地では上述の日清さんの工場から出た端材を使用すれば、「ハラール」になるの？ JAS と FSC が同時に認証されている様なものか。全く余計なお世話だが。

話を戻して。調べてみると、このベビースターラーメンが、今世界各国でウケている様だ。海外のスーパ

ーにぽつんと置かれていても不思議ではないようだ。筆者自身としては、遠足に持っていった？ もんじゃに入れる？ 程度の認識しか持たないが、海の向こうでは（あ！日本でも）、このベビースターラーメンが、お菓子界の横綱と言われている様だ。来日した外国人は、西の横綱が「うまか棒」で、東の横綱が「ベビースターラーメン」と人気を分けるのだそうだ。このベビースターラーメンにお湯を掛けて食べる観光客も居る（居た？）様だ。日本のお菓子にも Cool　JAPAN！と感じるとか。

メーカーさん（おやつカンパニーさん）も、積極的に海外展開を図っており、向け先の各国の味をしっかりとリサーチして商品に取り入れている。ここインドネシアでは、「チリソース味」的なものが当たっている様だ。
また話が外れるが、ここインドネシアではチリソースは大事。なんてったって、地元っ子は、日本レストランの高級うな重にも真っ赤なソースを平気でかけちゃう。当地の牛丼の吉野屋さんには、チリソースのサーバーまで置かれているとか。牛丼の具（アタマと言うらしい）にグルグルとチリソースをかけている市民の光景が目に浮かぶ。

「たかがチリソース、されどチリソース」
スーパーマーケットにて、ズラリと揃ったチリソースのレパートリーに驚くなかれ。
きっと、味の種類も豊富で、「何とかメーカーのニンニク入りチリソース有る？」「ニンニク入りは売り切れちゃったけど、サンバル（注１）なら小辛から大辛まで揃ってるよ」なんていう会話をしていたりして。

ベビースターラーメン（おやつカンパニーさん）の海外戦略からも目は離せない。

＊スーパーで陳列されたベビースターラーメン

＊スーパーでズラリと陳列されたチリソース
（どんだけ～！）

（注 1）サンバル
サンバル（インドネシア語: sambal、sambel）は、インドネシア料理やマレー料理に用いられる辛味調味料。サンバルソースともいう。チリソースの一種。辛いものから甘いものまで様々な味があり、市販品にはシーフード味など多岐に渡る。油で炒めて作るサンバルゴレン（Sambal　goreng）が広く一般的であるが、生で調理するサンバルマタ（Sambal　matah）もある。 南インド料理サンバール（sambar、sambhar、sambaaru、サンバー、サンバルとも）とは関係がない。しかし、日本語ではＬとＲを区別できないので混

同されやすい（Wikipedia より）。

中国

中国において、今年の旧正月期の契約数量は大幅に減少した。
各工場では価格調整が何度も行われてきたようだが、市場の冷え込みと世論の荒波に揉まれ、日本以外においても、注文量は例年に比べ大きく落ち込んだ結果を迎える事となってしまった。これは木材事業以外の産業でも同じ事が起こっているようであり、経済活動の停滞による今後の新たな騒動に発展しなければいいと切に願っている。

サッカーワールドカップが始まり、サッカー熱が非常に高い中国では、開催前からその関心が異常に高まっていた。中国におけるサッカーワールドカップの位置付けは、競技そのものの楽しみ以外にも、主にはネットを通じた知らない者同士の個人間で行う博打にも繋がっている為、とりわけ異常な熱が生じてくるのかもしれない。
神聖なるスポーツの祭典なので、ワールドカップを対象にした賭け事に結び付ける事はあまり好ましいとはいえないが、これが中国の現実でもあるため、あえて簡単ではあるが記述だけさせて頂いたまでである。

ゼロコロナを目指す中国では、もしかしたら政府の思惑通りなのかもしれないが、ワールドカップ熱が各地での市民デモにまで繋がってしまった感は否めない。今回のサッカーワールドカップにおいては、一部報道規制がある中、各地でサッカー中継が配信された。報道規制とは、例えばスポーツバーや観戦前後の観客インタビューを映し出さないように、といった報道規制である。各国の人々が、現在中国人民を苦しめているコロナ問題から解放されている映像は、出来る限り映さないように報道規制を行ってきたようだが、試合そのものは中国側のスポンサーの兼ね合いもあり、そのまま映し出すしかなかった（カタールのサッカー場の広告には必ず中国企業が載っている）。

試合観戦中、目の前のテレビ画面から流れて来るスタジアムの観客を見るにつれ、各国の解き放たれたファンの行動や大きな歓声が映し出され、自国の現状に対して、何とも虚しい孤独感に包まれてしまった人々も少なくなかったのかもしれない。
何故自分の国だけが、何故自分の街だけがロックダウンされ、行動が規制されなければならないのか。広東省や甘粛省、さらには新疆ウイグル自治区のロックダウンの実態に抗議する報道が相次いで流れてきた。そして終には、国際都市上海までもが、抗議デモを起こしてしまったのである。
11 月 11 日にゼロコロナ政策に対し、微調整ではあるが、若干の緩和策が政府から発信された。これを機に、少しなりとも現行のゼロコロナに対して、何かしら変化の兆しが起こり得るかもしれないと思った矢先の出来事であった。

常々思う事がある。トップの判断とは非常に難しいものであると。中国では、コロナが始まった 2020 年の感染スタート時期から、厳しすぎるのではないかと思うぐらい各地でロックダウン体制を敷いた。そしてあっという間に、世界中のあらゆる国がコロナ感染でハチャメチャとなっていった。

早期に街と人間の動きを封鎖した中国は、世界のどこよりも早く経済回復を果たし、国民からも海外からも、結果として成功例としてもてはやされた時期があった。ここまでは良かったのかもしれない。ところが、いつまでも一つの成功例だけにしがみついてしまうと、現在のように今度は反感を買ってしまう事態に繋がってしまう。難しいものである。
今回開催されているワールドカップの日本代表においても、一戦目で強豪国を破り、監督が大絶賛を浴びた後で、二戦目の敗戦を迎えてしまうと、指導者への各人からの批判・評論が始まる。何とも辛いものである。

中国指導者側の心の奥底の考えまでは、一個人では到底窺い知ることはできないのだが、その時の行動が正しかったのか、正しくなかったのかは、後で歴史が証明して行けば良い。もしかしたら、今の問題においては、次なる一手に手を加えていくべきなのかもしれない。それは、ウクライナとロシアの指導者にもいえる事のような気がしている。いずれにしても、中国のゼロコロナ政策にしても、ウクライナとロシアの戦いにしても、第三者の役割は大きいと思っている。

少し話が飛ぶが、久しぶりに大相撲九州場所の優勝決定戦が巴戦となった。28 年ぶりの出来事らしい。その巴戦で印象に残るドラマがあった。
巴戦の第一戦目は、その後巴戦を制する阿炎（あび）と高安との一戦。阿炎が立ち合いで高安とぶつかった瞬間、当たりどころが悪かったのか、高安が脳震盪で膝まずき倒れ、負けた。その後、阿炎と大関・貴景勝との二戦目で、阿炎が一気に押し出して貴景勝を破り、見事に初優勝を飾った。

脳震盪で倒れた高安の故郷である茨城県土浦市では、準備されていたパブリックビューイングは、大賑わいだったと聞いた。サッカーワールドカップ日本戦がコスタリカと対戦する 1 時間前くらいの出来事であった。
華々しく報じられる阿炎の初優勝の裏で、脳震盪を起こした高安は悔し涙を見せて去っていった。一戦目で高安と戦った阿炎との一番、もし貴景勝が阿炎に勝てば、次の高安戦は、間違いなく貴景勝が勝っただろう。
しかし、そのような惨めな力士の姿を見せつける事は、貴景勝には出来なかった。全ては推測ではあるが、そうに違いないと美化しておきたい一番であった。真実を報じる事はないのだろうが、少なくとも私にはそう映った。見ていた多くの人が同じ気持ちを持ったのではとも思っている。

戦いというものは、勝敗だけに拘り見ている者にとっては理解し難いところがある。今回の巴戦では、勝ち負け以外にも見応えのある戦いというものがあるのだと、強く感じさせてくれた戦いであった。また勝負とは、上述したような美しさだけではなく、基本的には泥臭いのが大半でもある。ましてや、現在世界で行われている経済戦争やウクライナとロシアの長期戦は、いかにもドロドロしている戦いである。

土俵の上で戦った巴戦を世界の舞台に例えるならば、もう一国（第三国）による優しい手の差し延べ方というものが、必要になってくるのかもしれない。強き者は、時に引き際を演出する業も必要なのだ、と貴景勝が教えてくれたような気がしている。

ベトナム

旧正月期の注文において、まだまだ新規契約を受け付けている工場が多いと聞く。さすがに 12 月に入ってきているので、これから旧正月前の船積が実行できると聞いて、品質面で安心して注文を入れる人は、まず居ないだろう事を信じているが実態は分からない。
粗悪な商品が入荷されれば、商品の動きは停滞し、倉庫事情がさらに悪くなっていく一方なので、そこは多くの人達の理解を求めて行きたいところである。

またしても、近い将来において木材商品の保管業務を辞退しそうな倉庫が出始めている。理由は一つ。動きが悪いからである。なかでも品質面で悪いものが入荷され、それが軒並み場所を食っており、回転が一気に悪くなってしまったとの事である。非常に残念だが、こればかりは企業方針なので理解していくしかない。値上げを示唆されたが、これが通らないと倉庫会社として採算が取れないと担当者からの悲痛な叫びであった。

安くて良い物を求めることが我々商売人なのだが、当然安くて良い物には限界点が有る。いつまでも価格競争を行い、顧客の為にといって、安くてホルマリンのきつい粗悪品を売りさばく事が、果たして昨今の時流に合っているのか？ そして何よりも、正しい事なのだろうか？ 今一度自らの立ち位置から真面目に考えていきたい。

当産地情報で何度か記述させて頂いているベトナムのご当地麺の話。
ベトナムの麺といえば圧倒的に世界に知れ渡っているのが、フォーである。しかし、過去の記述においては、フォーだけではなくブンチャーの事も記述させて頂いた。人により好みはあるが、フォーもブンチャーも、米粉から出来ている点で原材料は同じである。違いといえば、麺の太さだけである。フォーが太麺、ブンチャーが細麺。

また地域性もあって、ブンチャーの店はハノイに多く存在するが、それ以外の地域では、麺といえばフォーが主流（ちなみに当社スタッフをはじめ、ベトナムの麺で春雨が大好きな人もいるという事を、あえてここで記述させて頂く）。

フォーについては、ベトナム北部と中南部で味が大きく変わり、中南部に行くと甘い味がする（甘いというと勘違いされそうだが、砂糖のような甘さではなく、塩っ気が少ない甘さの意である）。
ハノイっ子は、中南部の甘いフォーをやや小馬鹿にしている向きがある事は有名である。また、このような文化の違いから生まれる人それぞれが好みの話をする事は、我が国日本でもよくある。敢えて言えば、うどん派、そば派みたいなものなのだろう。

次に、話はブンチャー（細麺）に移す。
2016 年にベトナムを訪問したオバマ大統領が食べたブンチャーの店は、今でも活況を呈している（店の名前は“HUONG LIEN”「フォンリエン」）。「オバマ ブンチャー」で検索すれば、たくさんの記事がネットで見ることができるので、一度時間がある時にのぞいてみていただきたい。

私がこの店に行ったのは、オバマ大統領が訪問した後の割とすぐの頃であった為、とんでもない行列だった事を憶えている。オバマ大統領が注文した、ブンチャーと春巻き（揚げ春巻き）、ハノイビールがセットになったオバマセットを注文した（オバマ大統領が頼んだレシピがそのままセットメニューとなった）。ここに来店する多くの観光客は、まずこれを注文する。
最初に揚げ春巻き登場、これがまあ美味い。ベトナム春巻きといえば、日本人なら当然ながら生春巻きかと思いがちだが、ベトナムに住む人たちは、生春巻きはそれほど食べない。揚げ春巻きが圧倒的に主流である。
ちなみにお値段だが、オバマセットで 12 万ドン（現在レートで約 750 円位）。現在は円安なので、さほど割安感は伝わりにくいのだが、過去の平均為替レートで換算すれば約 600 円相当である。この店も、これだけ地元民を含めた多くの客が来店しているので、「観光物価」にでもなるかと思いきや、ベトナム人は物の価値観が分かっている。殆ど値上げ無しで営業続行中なのである。

また、店は 3 フロアーに分かれていながらも、従業員数が多い事から、来店客を待たせる時間は少なく、サービスも非常に良い。オバマ大統領が店に来てから 7 年近くたった今でも、活況を呈しているこのオバマブンチャーの店に、久しぶりに行きたくなってきた。

ロシア

AA）トピックス　：
１）「変化がほしい」:
先月 NHK スペシャルで放映された「映像の世紀バタフライエフェクト」シリーズの「ソ連崩壊 ゴルバチョフとロックシンガー」をみた。ソ連崩壊の危機を迎えたソ連に登場した当時のソ連共産党書記長ゴルバチョフと、彼の提唱するペレストロイカの中で、若者たちからの絶大な支持を集めたロックバンド「キノー」（ロシア語で кино、映画を意味する）を取り上げていた。このバンドのメンバーで今でもカリスマ的な存在であるヴィクトル・ツォイ。今回はこのツォイについて言及してみたい。

アフガニスタンで数千人のソ連軍と退役軍人のランボーが死闘を繰り広げる映画「ランボー3　怒りのアフガン」に米国民が熱狂していた 1988 年、旧ソ連の若者たちは映画「針（игла）」で薬物の売人たちと戦うヴィクトル・ツォイを見ながら、映画の挿入歌「血液型（группа крови）」を口ずさんだ。

ヴィクトル・ツォイは、1980 年代のソ連で若者たちに最も愛された歌手兼俳優だった。「万人の全て」と呼ばれた彼は、歌手という肩書だけでくくることはできない。1980 年代半ば、ソ連は米国との冷戦が続いた時期を経て、ペレストロイカ（建て直し）やグラスノスチ（情報公開）の扉が開き始めた時代だった。ソ連の社会と経済が深刻な停滞期に入ると、ゴルバチョフは市場の自由化と国家主義に対する体制整備を断行した。しかし、それは思ったほど簡単ではなかった。無責任な公務員に、生産性が低く機械的に働く企業と労働者。効率的な社会が期待できない状況だった。国の政策は実情とは異なり、若者たちは混乱していた。改革と変化を願う若者たちの熱望は、洪水のようにあふれ出した。このような時代にツォイの強烈なメロディーと革命的な歌詞は、暗く沈んだ若者たちの心を打った。彼の曲が若者たちの愛唱歌になったのはある意味必然だったといえる。

ヴィクトル・ツォイは 1962 年にカザフスタンで生まれ、ソ連のレニングラード（現在のサンクトペテルブルク）に移住して幼少時代を過ごした。彼の父はロシアに移り住んだ朝鮮系のいわゆる「カレイスキー」と呼ばれる高麗人 2 世で、母はウクライナ出身のロシア人だった。ツォイはカレイスキー3 世にあたる。幼い頃から絵が好きだった彼は、美術学校を卒業後、手作りの木彫りの人形やロックグループ、レッド・ツェッペリンのメンバーの肖像画を描いて市場で売るなど、芸術的才能に恵まれていた。彼は特にロック音楽を好んだ。古いアパートでボイラーマンとして働きながらギターを練習し、歌詞を書いたという。1980 年代、西欧を席巻したニューウエーブ音楽の波がソ連にも押し寄せた。やがてツォイは 4 人組ロックバンド「キノー」を結成する。

ヴィクトル・ツォイと「キノー」の楽曲が人気を集めたのは、映画の影響も大きかった。1987 年にソ連でヒットした映画「アッサ（acca）」のエンディングは、キノーのライブ公演で幕を閉じる。この時演奏した曲「変化」は、当時の若者たちの非公式国歌となり、街のあちこちで歌われた。「僕たちは変化を待っている」というフレーズが彼らの心情を代弁した。歌詞の中の「変化」がどのような変化を指すのかははっきりしないが、ソ連の若者たちとメディアはこれを時代の変化だと解釈した。

観客と評論家の双方から好評を得て最高潮だったヴィクトル・ツォイの最期は、むなしいものだった。1990 年 8 月、ラトビアの首都リガで交通事故に遭ったのだ。彼が運転していた車が中央分離帯を越えた原因が過労による居眠り運転なのか、不注意なのかは分かっていないという。ただ、はっきりしているのは彼が 28 歳という若さでこの世を去ったという事実だ。有名人の自殺報道に影響されて若者の自殺が増えるいわゆる「ウェルテル効果」のせいか、彼の死後に後追い自殺をするファンが相次いだ。彼の最期も、彼を見送るファンたちも映画のようだった。

ツォイの代表的な楽曲「変化」を紹介する。

【変化】（が欲しい）	【ПЕРЕМЕН！】
炎の変わりに一　煙だけがある	Вместо тепла - зелень стекла,

熱の変わりに一　寒さ
他の日はカレンダーの線からはみ出す
赤く輝く太陽は完全に焼き尽くし
そしてこの日も共に無くなる
そして白熱した都市へ、影が落ちる

ボク達は変化が欲しい！
それはボク達の心の欲求だ。
ボク達は変化が欲しい！
それはボク達の眼の欲求だ。
ボク達の笑いの中に、涙の中に、血管の中に。
ボク達は変化が欲しい！

Вместо огня - дым,
Из сетки календаря выхвачен день.
Красное солнце сгорает дотла,
День догорает с ним,
На пылающий город падает тень.

Перемен! - требуют наши сердца.
Перемен! - требуют наши глаза.
В нашем смехе и в наших слезах,
И в пульсации вен:
"Перемен!
Мы ждем перемен!"

この“ПЕРЕМЕН”は「ペレミェン」と発音し、この言葉を繰り返すことで、若者たちの求める社会変革を叫び訴える。どんな変化を求めているのかは、先に述べた通り具体的に書かれていないが、とにかく今を変えたいとの思いが伝わってくる曲だ。
この楽曲が、今はロシアに抵抗するウクライナの人たちによって歌われている、というのは歴史の皮肉である。

かつてソ連時代にウラジミール・ヴィソツキーという詩人であり歌手がいた。地下出版はよく知られているが、その音楽版。いわゆる非合法的アングラで活動する反体制歌手だった。しゃがれた声で反戦ソングを作り社会批判を繰り返し、市民は粗悪な音質の海賊版カセットテープが擦り切れるまで聴き入った。時を経てヴィソツキーは、ソ連の永遠の人気歌手と呼ばれるようになり、殿堂入り歌手に選ばれる。そのヴィソツキーに次いで、ヴィクトル・ツォイも殿堂入りした。

モスクワ以内にあるアルバート通り脇の小路の煉瓦塀に、「ツォイは生きている」などのメッセージがペンキで殴り書きされている。この壁をめぐっては市当局と対立したり、書かれた文字が抹消されることもあったが、現在でもファンによるメッセージの書き込みは続き、「ツォイの壁」と呼ばれる観光名所になっている。ツォイの壁はモスクワ以外にも存在するのだが、発祥の地はここである。

「ツォイの壁」(Russia Beyond より)

没後 30 年以上経っても、彼にまつわる映画作品が作られてきた。「LETO （лето、夏の意味）」では、ツォイのデビューに向けたひと夏の体験が描かれ、「ツォイ（Цой）」では、ツォイの運転する車が正面衝突してしまったバスの運転手を主人公にし、そこからツォイの存在を照射している。ツォイはまだ現代に生きている。

ウクライナ生まれのロシア人の母を持つツォイが今甦ったとしたら、同じスラブ民族同士の争いをどう表現しただろうか。

２）「ロシアにおけるアジア系の有名人」:
東洋と西洋にまたがるロシアは、その歴史の大部分においてヨーロッパというよりむしろアジアの土地ではなかったのか。そこで政治からスポーツまでさまざまな分野で活躍してきたアジア系の人々をみていく。

ロシア生まれの朝鮮人である**ヴィクトル・ツォイ**（1962～1990）。彼については、前項で述べたので軽く触れるに留める。同世代のミュージシャンの中でずば抜けて才能に恵まれていたというわけでもなかったが、彼の曲は今や伝説となっている。彼は現実に抗わなかった。彼が言うには、変化は避けられないのだから、現実は無視して良いというもの。ツォイの書く歌詞は明快で、彼には誰もが共感し得た。

ピョートル・バドマエフ（1851～1920）はロシア極東のブリヤート系の家族の出身だった。バイカル湖のあるイルクーツクに生まれた彼はサンクトペテルブルク大学の東洋学部を卒業後、チベット医学の医師として有名になった。バドマエフは自分の庭で植物や薬草を栽培していた。彼の治療法は決して公開されなかったが、大変効果的で、彼はついに皇帝アレクサンドル 3 世とその息子ニコライ 2 世の医師となった。彼は故郷のブリヤートのためにも尽力し、教育の向上、新聞の創刊、バイカル地方の金採掘協同組合の組織を実行した。チベット医学に関するバドマエフの研究が広く認知されたのは彼の死後のことで、1991 年にはロシア科学アカデミーが彼の研究についての本を出版している。

1955 年にアジアの中央部に位置するトゥヴァ共和国に生まれた**セルゲイ・ショイグ**は建設業界で働いてきたが、1991 年に非常事態省の政府委員会の委員長となった。1994 年から 2012 年まで非常事態相を務め、2012 年以降はロシアの防衛相を務めている。ショイグはロシア連邦で在任期間が最長の大臣だ。ショイグはロシア正教信者だが、故郷では仏教が浸透しているため、ロシア内の仏教の保護にも取り組んでいる。今や彼はウクライナ侵攻の渦中の人物としてメディア露出も多い。

1970 年代とそれ以降にロシアで最も人気を博したロックバンド「マシーナ・ヴレメニ」（「タイムマシン」の意味）のメンバーのひとり、**セルゲイ・カワゴエ**（1953～2008）。彼の父親、川越史郎はソ連の日本大使館で通訳として働いていた。日本に親戚を持つカワゴエは、日本の高価なエレキギターとキーボード（ソ連期には品薄だった）を調達することができたので、彼は「マシーナ・ヴレメニ」に招かれ、自身の楽器を携えてバンドに参加した。「マシーナ・ヴレメニ」を去ったのち、彼はロシアで人気を博した別のロックバンド「ヴォスクレセニエ」（復活）を立ち上げた。1980 年代末、カワゴエはロシアを去って日本へ向かい、その後カナダへ移住した。

コスチャ・チューは 1969 年、エカテリンブルク州で朝鮮系の家庭に生まれた。彼の祖父は中国から移住した。朝鮮族のボクサーとしてのキャリアは 9 歳で始まり、17 歳までに彼はソ連のジュニア・チャンピオンに輝いた。1989 年と 1991 年にヨーロッパ・チャンピオンとなり、さらには世界チャンピオンにもなった。2001 年から 2003 年まで、チューは無敗だった。

イリーナ・ハカマダは 1955 年にモスクワで、ソ連に移住した日本人の共産党員の父親・袴田陸奥男（彼の兄・袴田里見も大正・昭和期に活動した元日本共産党の有名な幹部）とロシア人の母親のもとに生まれた。イリーナの兄・袴田茂樹は日本でロシア研究の教授職に就いた有名人だ。イリーナは経済学でキャリアを積み、博士候補者の学位を取得した。モスクワのロシア商品・原料取引所（RTSB）の創設にも携わった。1992 年には彼女は政治家としてのキャリアを積み、国会議員にもなった。さらに 2004 年には大統領選に出馬し、3.84 パーセントの票を得たこともある。現在もさまざまな分野で活躍中である。

BB）産地現状 ：
10 月末の首都圏におけるロシア製品の在庫数量は約 61,400m3 と前月比で少し減少している。出荷量は微増で迫力はないが、新規入荷が少ないため、今後在庫量は間違いなく減少するだろう。しかし、先行きの需要への警戒感や流通在庫の過剰感は解消されておらず、荷動きには停滞感が強い。一部の業者からは引き合いが出ているものの、総じて在庫を持つことへの警戒感が依然強く、当用買いに徹することを選択している。年度末に向けて、在庫と契約残を絞り込みたい業者が多く、先々予測される品不足に遭遇するよりも、今の在庫調整を優先しているような感じ。

指標となる赤松垂木の現地価格は、前月比横ばい。対ドルでの現地通貨ルーブル高が続いていることもあり、現行価格以上の値下げ対応は難しいときく。つまり、産地価格の先安観はないとみたほうがいいだろう。

ニュージーランド

AA）商況/産地現状 ：
NZ 産ラジアタ松丸太の中国向けは、11 月価格が 9 月から＄20 以上値下がりしている。中国では厳格なゼロコロナ政策がとられており、その影響で木材加工工場の稼働が停滞するなど、木材需要は振るわず、価格が弱含み。

日本向けも中国向け価格にスライドした形で、前回比から下落している。最近船運賃が下落傾向にあることも影響している。ただ、日本市場では、秋口から NZ 丸太挽き製品が逆ザヤになっていることもあり、需要は低調。この煽りで日本向けへの配船が減少しており、入荷時期に不安要素がある。

輸出梱包業界は、10 月需要が多少上向いたとみえたが、以前低調な状況が続いている。業者間での温度差はあるとはいえ、総じて需要が盛り上がっている感覚はない。

BB) トピックス（ニュージーランドワイン）:
一般にはあまり知られていないかもしれないが、ニュージーランドのワインは、結構美味である。この NZ ワインの今年 9 月までの 12 カ月間の輸出額は前年を 6%上回り、過去最高の 20 億 3000 万 NZ ドルだった（1NZ ドル＝約￥86）。米国へは 7 億 2700 万 NZ ドル、カナダには 1 億 5700 万 NZ ドルで、これも過去最高。ただ、1 リットル当たりの価格は上昇しているので、数量は前年比で 4%減という結果だ。

今年 9 月の輸出金額は 2 億 8700 万 NZ ドルと月間輸出額最高。月間輸出額が 2 億 5000 万 NZ ドルを超えたのは史上初めてである。輸出業者は、「9 月に輸出額記録を達したのは、NZ ワインの卓越した風味、品質へのこだわり、そして『サステナビリティ』が、特に北米市場を中心とした国際市場で評価されたことの証明」と述べている。

他の商品にもいえることだが、ワインも生産コストの上昇や出荷の不安定さがあり、試練に満ちた 1 年だったという。そして、単純労働者、熟練労働者の不足もあり、さらに高インフレ環境での経営とともに深刻な懸念事項も存在している。

NZ では新型コロナウイルスの規制緩和により、ワイン目当ての観光客が回復し、さらにそれが増えることに期待が集まっている。

欧州

AA) トピックス ：
１）「Just Stop Oil」：
環境保護団体「Just Stop Oil」（ジャスト・ストップ・オイル）は、英国での化石燃料の探査・開発・生産のための新たな許認可をすべて終了するよう政府に働きかける合同グループである。そのグループは、許認可を直ちに停止するという声明を英国政府が出すことを求めている。

WEB サイトに掲載されている活動の理由や目標は以下の通り ：
○ 化石燃料はすでに余るほどある
○ 化石燃料への依存を完全に終わらせる
○ 再生可能エネルギーを利用する
○ エネルギー需要を削減する
○ 英国での高断熱（住宅）や移動手段を再考する
○ 誰も取り残されないようにする、すべての人の意見が尊重される
グループによると、運動は急速に成長しており、英国全土で毎週 20～30 回の公開ミーティングをオンライン、及び対面方式で開催しているという。

「ジャスト・ストップ・オイル」は最近、ロンドン中心部でイングランド銀行などの建物にオレンジ色のペンキを吹きかける抗議行動を再び行った。被害が出たのはほかに、米メディア大手「ニューズ」の英国本社や内務省、英情報局保安部（MI5）のビル。活動家たちは口々に、「何かが変わることを願っている。政府は目を覚まさなければならない」と語りながら、警察に連行されていった。

メディアの質問「なぜこんなことを？」 に対して、活動家たちの答は「他に何ができる？ この狂気の沙汰を止めなければ」、「化石燃料の新規計画を全て停止すれば、こんなことはしなくてすむ。政府は私たちの未来を奪った。私たちの未来を返してくれ」、「気候危機に対して政府は犯罪的なまでに無策だ。国連は人々が行動する必要があると言っている。国際通貨基金（IMF）も世界銀行もだ。なのに、政府は何もしない」。「では何をしているのか？ 新しい化石燃料の認可を発効しているだけだ。北海から原油を最後の一滴まで採掘する必要があると言っている」。「国際的に尊敬されている公的機関が言っていることに反している。ここにいる普通の人間の私はこんなことをしなければならないのか？　私が好きでやっていると思うのか？　違う。これは、政府が犯罪者である英国の国民としての義務だ」。

他にも、「誰も私たちの言うことに耳を傾けてはくれない。 言いたいことは明確だ」、「国連は私たちには時間がないと言った。 世界中で人々が死に近づいており、まもなく私たちの番がやってくる。だから、たとえロンドンの私たちが他の国々のことを気にかけなくても、私たち自身のことは気にかけなければならない。私も皆も、他の国々のことを気にかけていると思う」、「だが、彼らは現実から目をそらした。なぜなら、いつもの仕事に忙しく、全く持続不可能な生き方を変えないせいでどんな報いを受けるか、考えることに耐えられないのだ」。「うまくいって良かったし、何かが変わることを願っている。政府は目を覚まさなければならない」と・・・・。

主張している趣旨は分からないでもない。でも彼らの行動は批判されるべきである。上記した行動以外にも、ロンドンのギャラリーに展示中のゴッホの「ひまわり」に缶詰のトマトソースをぶちまけた。「アートと命、どっちに価値がある」との問いかけ。絵に浴びせたのは、ハインツ社のトマトスープ。アンディ・ウォーホルが同社製ケチャップを資本主義下の消費社会の象徴として取り上げたことが踏まえられたのだろうか。他にもオランダの美術館で、フェルメールの代表作「真珠の耳飾りの少女」を覆うガラスにも活動家が液体を投げつける出来事も起こっている。

ゴッホの名画を汚す環境団体のメンバー

（CNN より）

彼らのかような抗議活動は、社会の反応によって変化する。反応が薄ければ過激化する。気候変動対策に猶予はなく、殊に若い世代が憤るのは当然である。しかし、アートと命（人類の滅亡）を比べるというレトリックは如何なものだろうか？ この行動によって、気候変動に無関心な人たちがどれだけ意識を変えることができるだろうか。アートを攻撃するというこの方法に嫌悪感を示す人は少なくないと思っている。逆に気候変動を防止するために、アートの力を利用することで人々の意識を覚醒させ、変化につなげる方法はなかったのかと思う。私にはその手法が分からないけど・・・・。不愉快な「ジャスト・ストップ・オイル」による「エコ・テロリズム」と言いたいぐらいだ。

２）「欧州議会の決議」:
欧州議会（EU 議会）は、このほど「ロシア連邦によるウクライナ市民に対する意図的な攻撃や残虐行為、民間インフラの破壊、人権や国際人道法の深刻な違反は、テロ行為に相当する」と決議しこれを採択した。これは、ロシアをテロ支援国家であり、テロ手段を行使する国家と認定したものだ。
欧州議会の決議は、法的拘束力のない象徴的な政治決定。欧州連合（EU）は米国とは異なり、国家を「テロ支援国家」に指定する法的な枠組みを有していない。従い、この決議は、EU に対して「法的な枠組み」の整備を求め、ロシアをテロ支援国家に指定するよう促すものである。
国際社会に対してロシアを「テロ国家」に認定するよう求めてきたウクライナのゼレンスキー大統領は、今回の欧州議会の決議・採択を称賛し、「ロシアはあらゆるレベルで孤立し、ウクライナや世界各地で長年続けているテロリズム政策を終わらせるために責任を負わなければならない」と訴えた。

因みに「テロ支援国家」(State Sponsors of Terrorism)とは、テロ行為を行っているか、テロリストに関連していると米国政府によって判断された国家のことである。これは米国の法律に基づき、同国務省が指定を行っている。現在、米国政府がテロ支援国家に指定している国は、シリア、キューバ、イラン、北朝鮮の 4 カ国。過去には南イエメンやイラク、リビア、スーダンが指定されていたが、既に指定解除されている。本来のこの定義から、米国以外の国々の政府・議会は、テロ支援国家という概念や言葉を自己表現としては使用してこなかった。

米国は、ロシアのウクライナ侵攻を受け、ウクライナ側が米国にロシアをテロ支援国家に指定するよう求めたが、バイデン大統領はそれを拒否した。それは、ロシアをテロ支援国家に指定すると、ロシアを必要以上に刺激することにつながるので避けたといわれている。一方、ウクライナは、侵攻を受けテロ国家と認定している。そして、バルト 3 国はかつてロシアに侵攻された歴史もあって、ロシアをテロ国家に指定している。
今回の欧州議会のロシアを「テロ支援国家」とする決定が、米国の今後のロシアへの対応にどのような影響を与えるかはみものだが、そう大ごとはならないと考えている。ミサイルのポーランド領内への着弾を巡る騒動から派生し、ロシアとウクライナの戦いに対し休戦、停戦といった新たなステージが現れる可能性が出てくるとの楽観的な考え方がそうさせている。予測はいつも外れるけど・・・・。

今回の EU 議会の決議は、上記以外のものもあった。目下、カタールで盛り上がりをみせているサッカーW杯において、同国の人権状況を「遺憾」とする決議案の採択である。この中身は、性的少数者（LGBTQ）のコミュニティーを創成することや出稼ぎ外国人労働者に対する人権侵害に憂慮するものだ。

決議内容では、カタールでは国内法で性的少数者を最長 6 カ月間、起訴することなしに拘束できる点を指摘するとともに、同意の上での同性間の性的関係を禁止する法律を廃止するよう求めている。また、W杯にかかるスタジアム建設に従事した外国人労働者らが数千人規模で死亡したとして、その調査の実施も要求している。

日本代表が緒戦で強豪ドイツ代表と対戦し、劇的な勝利「ドーハの歓喜」を生んだ。ドイツ代表 GK で主将のノイアー選手は、今回の大会で性的少数者などを支持する意味で、「ONE LOVE」と書かれた虹色の主将向けキャプテンマーク（腕章）を着用する予定だったが、国際サッカー連盟（FIFA）が同性愛を禁止するカタールに配慮してか、着用すれば制裁する方針を示したことで断念した（これはドイツ代表だけでなく同国を含む欧州 7 チーム）。日本戦を前にした写真撮影では、これに抗議する意図を込め、スタメン選手全員が口を手で覆う姿がみられた。

東京五輪でも明らかになったように、華やかな行事の裏によく見え隠れする影。スポーツに政治や社会問題を絡めていいかどうかの是非はともかく、サッカーを楽しむ時間のうち少しでも、影の部分に目を向けてもいいのではと感じた次第。
この問題については、時を改めて論じてみたい。資源マネーに投資する欧州の欺瞞も含めて。

日本戦を前に口を覆うドイツ代表（AFP 時事）

BB) 欧州産地状況　:
首都圏の欧州製品の10月末の在庫数量は約70,000m3程度と先月とほぼ変わらない。入荷量は減少しているが、出荷が想定よりも伸びていない。とはいえ、先月に比べると出荷量は徐々に上向きつつある印象を持つ。因みに欧州製品の10月の入荷量は、全国で約22万m3。8月は約37万m3、9月は約25万m3だったので減少傾向が続いている。成約を絞った結果がこの数字に表れている。

総じて、欧州製品は日本国内、欧州産地ともに荷余りと弱基調が続いているといえるだろう。国内は在庫過多の状況が依然としてある。ウッドショックが和らぎ始めたときに起こったロシアのウクライナ侵攻により、またぞろ供給不足に陥るのではないかと考え、今年の第2四半期に高値で多く買い込んだ「後遺症」に今、悩まされている。この時期に契約した入荷が、実需以上に多くなったことで、この在庫消化に時間を要し、新たな荷動きが盛り上がってこない・・・・。さらに、ウッドショックを契機に欧州材から一旦離れた需要がまだ戻ってこない状況もある。

第4四半期契約分の構造用集成材やラミナ契約が今月初めにまとまったが、産地価格が前回からさらに弱含んだ。この価格水準では、強烈なコスト高（接着剤やガソリン代、さらに物価高を受けた人件費の高騰など）に見舞われている産地では、採算ぎりぎりか下回る可能性もあるため、ここが底値だろうとの見方が強まっている。
羽柄製品については、W/W間柱の11/12月積みの交渉は難航している。だが、成約量は7/8月積み以降、3ポジション連続で絞られることは確実視される。従い、間柱の入荷は春先まで縮小傾向が続く。不足感が生まれるかどうかは、今後の需要いかんではあるが・・・・。産地価格は、産地のコスト高を反映し底値感が浮上している。

12月に入ると、来年第1四半期契約分の構造用集成材、及びラミナ契約、及び1/2月積みの間柱契約の交渉が始まるが、産地側では今回の価格水準からさらに下げる余地はないとの見方が多くきかれる。為替相場要因はあるが、これで先安観が一掃され、国内相場が回復することを望む次第。

北米

AA）トピックス　：
１）「ペロシ下院議長」：
米国司法省とサンフランシスコの検察は先日、米政界の実力者、ナンシー・ペロシ下院議長（民主党）と夫ポール氏の自宅に押し入り、ポール氏に重傷を負わせた男を殺人未遂や連邦政府職員の家族への暴行など、複数の罪状で訴追した。男はペロシ議長への誘拐未遂罪にも問われることになった。
司法省とサンフランシスコ地検によると、この容疑者はサンフランシスコ市内にあるペロシ夫妻の自宅に押し入り、夫ポール氏をハンマーで襲い重傷を負わせた。ペロシ議長を探して「ナンシーはどこだ」と叫びながら、犯行に及んだ疑い。

この背景には何があったのか。米国では今月 8 日、連邦議会の上院の一部と下院の全議席が改選対象の中間選挙が行われ、何とか民主党は議席を大きく減らさず、バイデン政権の継続にフォローの風が吹いた結果となった。今回の事件はその直前に、大統領権限の継承順位 2 位の下院議長を狙った襲撃事件と位置付けることができ、政治的暴力（テロ）の悪化が懸念された事態といえよう。尚、警察は犯行動機を捜査中だが、「無作為の行動ではなかった」としている。

議長宅襲撃からまもなく米国政府は、「イデオロギー的な怨恨」を動機にした人物が、選挙候補者や選管職員に対して過激主義による暴力を働く危険が高まっているとして、全国の捜査機関に注意喚起した。それにしても、トランプ支持者の米議事堂乱入事件をみるまでもなく、民主主義の総本山とされる米国で、同様の「政治的テロ」をよく目にする。分断された米国の裏面をみた思いを持った。今回の議長宅への襲撃後、事件の内容についてもさまざまな虚偽の主張がインターネットで拡散されているように、今後も同様の出来事が起こる可能性は否定できない。

２）「陰謀史観と非科学信仰」：
別にトランプ氏が政治の場に登場し、台頭してきたからということではなく、科学的な根拠に基づいて世の中を読み解いていく国と思われてきた米国では、建国以来、非科学的な信仰による言説や思想が飛び交っていた。
米国は、民主主義について自らの主義・主張を公然と表明しているが、その中身は最近よく耳にするような「反知性主義」によって形成されてきたのではと思う今日この頃だ。

ワクチン接種に反対、気候変動への対応、Q アノンという「陰謀史観」、過激化する人種差別、拡大し続ける経済格差問題など、米国の現状をみていると、まさに国民は分断しており、行動が先鋭化している。これらの原因になっているのが、非科学信仰ではないかという見方が生まれている。

コロナ感染は陰謀史観、反ワクチン、反マスク、そして移民受け入れの是非、銃規制問題、とみに最近話題になっているこれらの事象を殊更強調することによって、市民間の対立を煽ってきた。この反知性的な言動が、科学的アプローチよりも人々の心に訴えることに親和性があるとすれば、感情の伴う非科学主義が横行していることは十分理解できる。

陰謀史観が世の中に拡散するに適した時代、まさに今がそうだろう。コロナというウイルスを退治しようと科学の力を信じても、意外に首尾よくいかない現実があった。ようやくコロナは収束する事態となりつつあるが、そのプロセスにおいて科学的思考による行動様式は案外役に立たないとする言葉が飛び交った。世の中の仕組みを説明したり理解するには、より原始的な方法と様式に頼った方がリーズナブルではないかと考えるようになってきた。

何が正しくて何が間違っているか、分かりにくい現代。だからこそ、そこに陰謀史観や非科学信仰の付け入る隙がある。

BB）産地現状　：
１）原木関係　：
大手製材工場向け 11 月積み米松原木価格は、尺上、尺下とも前月比＄30 安で決着した模様。逆ザヤの続く国内挽き製材大手が先月積みに引き続き値下げを要求した結果、産地サイドは、前述した値下げレベルで応じた形だ。産地では買材の逆ザヤが続いているが、北米製材市況の低迷で先高観が遠のいている現状を考慮したということだろうか。

9 月半ばから 46 日もの間続いた労働組合のストライキは終結したことで、自社林からの伐採増やすことができたことが、価格下げに寄与したともいえる。

合板メーカー向けカナダ産米松原木価格は、製材向けとは対照的に価格の高止まりが続いていたが、合板メーカーの引き合いが減退し、産地価格は少し下がった。また、フレートも下落していることで、輸入コストは前月比で下落している。ただ、競合する国産材に対する価格競争力はない。

２）製品関係　：
在来向けの輸入米材製品だが、第 4 四半期は価格が下がったものの、成約量は通常の 3 分の 1 程度。国内挽きに合わせた販売価格では逆ザヤ。産地価格の下落は避けたいところだが、高いままでは競合材への価格競争力が失われる。それは市場シェアが削られるにつながる。

来年第 1 四半期の北米輸入製品も引き合いは低調になることが予想される。国内挽き米松商品や R ウッド構造用集成材価格の居所を考えると、当然のことかもしれないが・・・・。間違いなく輸入製品のシェアは浸食されている。この状況は来年第 2 四半期まで続きそうな感じだ。

このような状況下、カナダ沿岸製材大手社が、日本からの受注が大幅に減少したことを受け、米ツガの主力工場の製材ラインを 10 月から 6 カ月間閉鎖した。来年 4 月には生産再開を目指しているらしいが、果たしてその頃にどれほど受注が回復しているだろうか。

３）米国の住宅着工　：
米国の新設住宅は連邦準備制度理事会(FRB)の相次ぐ利上げで住宅ローン金利が 7%台まで上昇している。その影響で、新設住宅着工にブレーキがかかっている。
米国の 10 月の新設住宅着工は年率換算で 142 万 5 千戸となった。9 月の改定値は速報値から上方修正された。着工数は 8 月の 150 万戸をピークに 2 カ月連続で減少している。その内訳だが、戸建てが 85 万 5 千戸。前年同月比で 2 割減となっている。5 戸以上の集合住宅は 55 万 6 千戸で、こちらは横ばい。

概況

東京15号地 在庫推移　：

2021年　：						
12月23日現在	：	米加製品 47,500	欧州製品 41,739	ロシアその他 63,407m3	計 152,646m3
2022年　：						
1月28日現在	：	米加製品 54,170	欧州製品 53,761	ロシアその他 70,816m3	計 178,747m3
2月25日現在	：	米加製品 46,330	欧州製品 57,875	ロシアその他 71,969m3	計 176,174m3
3月30日現在	：	米加製品 58,991	欧州製品 58,647	ロシアその他 68,594m3	計 186,232m3
4月27日現在	：	米加製品 52,667	欧州製品 58,319	ロシアその他 66,500m3	計 177,486m3
5月30日現在	：	米加製品 50,582	欧州製品 56,610	ロシアその他 70,581m3	計 177,773m3
6月30日現在	：	米加製品 53,520	欧州製品 58,838	ロシアその他 80,125m3	計 192,483m3
7月29日現在	：	米加製品 47,643	欧州製品 61,269	ロシアその他 87,358m3	計 196,270m3
8月30日現在	：	米加製品 48,829	欧州製品 66,804	ロシアその他 93,809m3	計 209,442m3
9月29日現在	：	米加製品 46,729	欧州製品 69,986	ロシアその他 90,222m3	計 206,937m3
10月28日現在	：	米加製品 46,324	欧州製品 69,715	ロシアその他 82,239m3	計 198,278m3

2022年11月29日現在　：
米加製品 38,207m3　欧州製品 63,929m3　ロシアその他（含む中国）80,092m3　　計 182,228m3
前月比16,050m3の減。米加製品8,117m3減、欧州製品5,786m3減、ロシアその他2,147m3の減。

住宅概況　：
2022年9月の新設住宅着工数は73,920戸（前年同月比1.0%増）で2カ月連続の増加となった。貸家、及び分譲の増加が顕著だ。一方で持ち家は10カ月連続で減少、1-9月累計で持ち家は20万戸をした回り、2020年同期並みの低水準となっている。

以上

弊社のホームページもご利用ください。
https://yuasa-lumber.co.jp